

3. 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用
ショック、アナフィラキシー様症状（頻度不明）
ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、意識昏倒、顔面浮腫等の過敏症状あるいは気管支喘息発作等の症状が発現した場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用		頻度不明
長期・大量投与	肝障害	
消化器	便秘、食欲不振	

注）長期又は大量投与を避けること。

4. 高齢者への投与
一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

【薬効薬理】
タンニン酸アルブミンを経口投与した場合、口腔、胃では分解を受けず取れん作用をあらわさないが、腸にいたって腸液によって徐々に分解してタンニン酸を遊離し、全腸管に緩和な取れん作用をあらわすことにより、止血作用をあらわす。

【有効成分に関する理化学的知見】
一般名：タンニン酸アルブミン（Albumin Tannate）
性状：【組成・性状】2. 性状の項参照のこと。

【取扱い上の注意】
配合変化
・アルカリにより分解する

【文献請求先】
東洋製薬化成株式会社 医薬情報部
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路5丁目20番19号
*電話 0120-443-471



使用期限

製造番号



**2015年6月改訂（第7版）
*2012年4月改訂

日本標準商品分類番号
872312

承認番号	(60AM) 第5883号
薬価収載	1985年12月
販売開始	1985年12月
再評価結果	1981年8月

貯法：避光した気密容器
*使用期限：外箱に表示（3年）
たん白質の基原：乳性カゼイン

整腸剤

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
1. 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 出血性大腸炎の患者（腸管出血性大腸菌（O157等）や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。）
3. 経口錠剤を投与中の患者（「相互作用」の項参照）
4. 牛乳アレルギーのある患者（ショックまたはアナフィラキシー様症状を起こすことがある。）

【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）】
細菌性下痢患者（治療期間の延長をきたすおそれがある。）

【組成・性状】

1. 組成
1g中 日本薬局方タンニン酸アルブミン1g含有。
本剤はタンニン酸とたん白質との化合物であり、そのたん白質は乳性カゼインである。
2. 性状
淡褐色の粉末で、においはないが、又はわずかに特異なにおいがある。
水又はエタノール(95)にほとんど溶けない。
水酸化ナトリウム試液を加えるとき、混濁して溶ける。

【効能・効果】
下痢症

【用法・用量】

タンニン酸アルブミンとして、通常成人1日3～4gを3～4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
肝障害のある患者（肝障害を悪化させるおそれがある。）

2. 相互作用

(1) 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
経口鉄剤	併用により相互に作用が減弱することがあるので、併用しないこと。	難溶性の塩を形成すると考えられる。

(2) 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
塩酸ロベラミド	併用薬剤の効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をあけるなど併用に注意すること。	本剤の吸着作用による。